



水道局の裏側体験ツアー

＊神戸市水道局

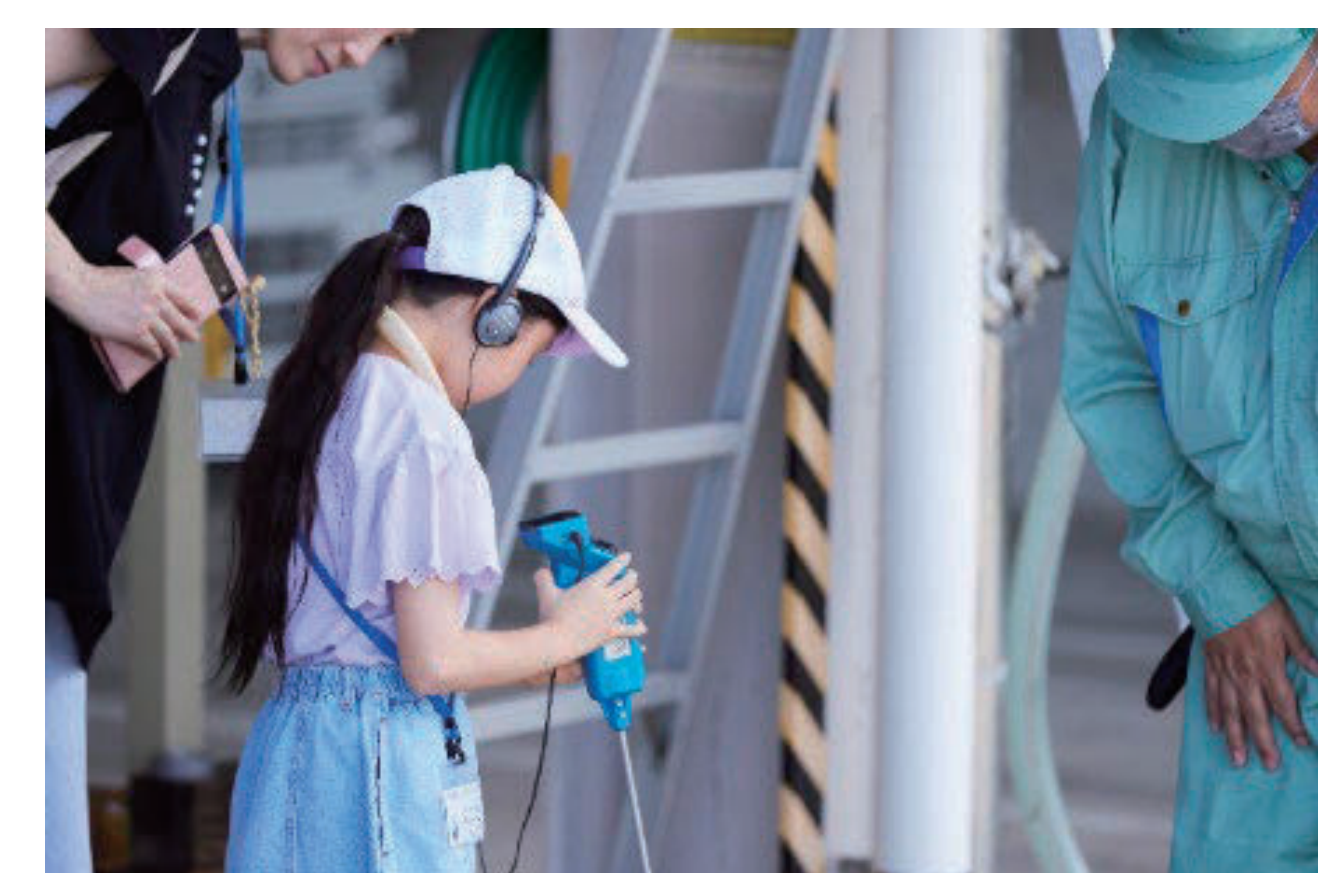
1.抱えていた課題

- ・施設の老朽化やコロナ禍で水の性質や水道の仕組みが学べる水の科学博物館を閉館することとなり、子どもが水道について学べる機会が**減少した**
- ・水道の役割や重要性が市民、とりわけ**次世代（～20代）**に十分伝わっておらず、**関心が薄い**
- ・水道施設や業務が目に見えにくく、**蛇口の向こう側の取り組みへの理解が進んでいない**
- ・将来の担い手確保に向け、水道事業の魅力や社会的意義を**効果的に発信する必要がある**

2.活動概要

①水道局の裏側体験ツアーのプログラム（令和7年）

- ・7/28 大容量送水管・立坑見学！
- ・7/30 プロの仕事をのぞいてみよう！（漏水調査体験、マッピング体験）
- ・8/1 水質試験所の仕事ってどんなもの？（ろ過実験や顕微鏡操作など）
- ・8/5 千苅浄水場・ダム見学！
- ・8/8 水道管レスキュー隊入門編！（大成機工(株)三田工場での作業体験）



②局ホームページ「KOBE WATER LABO」で疑似体験

- ・ツアー当日の様子を写真で紹介し、**臨場感のある情報発信**
- ・参加できなかった子どもへのデジタルによる**体験機会の提供**
- ・現地体験と連動させ、**学びの共有と広がり**を創出



3.活動の狙い

- ・水道の**役割や重要性**について、次世代を中心に分かりやすく伝える
- ・蛇口の向こう側の取り組みを「見える化」し、**理解を促進**する
- ・施設見学や体験を通じて、水道事業への**関心と親近感**を高める
- ・漏水修理体験等により、水道局の**技術への理解を深め、信頼性の向上**につなげる
- ・将来の担い手確保に向けて、水道事業の**魅力と社会的意義**を発信する
- ・参加者を通じた家庭・地域への**波及効果**を高める



4.PRポイント

① 多様な体験で伝える発信力

- ・施設見学やろ過実験、漏水修理体験などを取り入れた**多角的な体感型広報**
- ・「蛇口の向こう側」を五感で感じてもらい、**水道の重要性を直感的に訴求**

② 次世代への波及と担い手育成

- ・小中学生を対象とすることで、**将来世代への意識醸成**を図る
- ・家庭内や、参加者によるSNS発信等を通じた様々なコミュニティへ情報が広がり、**高い波及効果を創出**

③ 効率的かつ汎用性の高い取組

- ・既存施設や職員の技術を活用し、**高い費用対効果を確保**
- ・他自治体でも導入しやすい、**再現性・展開性の高いプログラム**

5.取組の成果（アンケート結果）

- ・全ての回において「よかった」以上がほぼ100%となり、**極めて高い満足度を達成**
- ・「知らなかったことを知れた」「学習になった」などの声が多数あり、**水道事業への理解が大きく向上**
- ・送水管やダム、水質試験などの体験により、**水が届くまでの工程や工夫を具体的に理解**
- ・「水をつくる大変さが分かった」「ありがたいと感じた」といった意見が見られ、**水道の価値認識・共感を醸成**
- ・「もっとやってみたい」「他の方法も試してみたい」など、**職業への関心や科学的探究心を喚起**
- ・「水をむだづかいしてはいけないと思った」との声があり、**節水など行動意識の変化につながった**